

細則様式第 4 号

論文審査及び最終試験結果報告書			
氏名	工藤 ひろみ		
入学年度	平成 25 年度	学籍番号	13GG705
領域	医療生命科学	分野	放射線生命科学分野
審査委員	主査	柏倉 幾郎	
	副査	木立 るり子	
	副査	細田 正洋	
	副査	床次 眞司	

論文題目：自然放射線被ばく研究を活用したリスクコミュニケーション手法の確立に関する研究

審査結果要旨：

本研究では、2011年3月に起きた東京電力・福島第一原子力発電所の事故を機に一般公衆に広がった低線量・低線量率被ばくによる健康影響への不安を軽減するためのリスクコミュニケーション手法に関する研究を行っている。福島原発事故後に多くの放射線専門家が健康影響を説明する際に自然放射線の被ばく線量を引き合いに出して説明したが、一般公衆の自然放射線に対する理解度やリスク認知の実態について調査したものは殆ど報告されていなかった。そこで、事故後早期から質問紙調査を通じて原発事故の被災者や一般公衆を対象とした自然放射線に対するリスク認知の調査を行っている。この結果は、既に日本保健物理学会が刊行している*保健物理*に掲載された。また、低線量・低線量率被ばくによる健康影響を説明するツールの一つとして、自然放射線源からの被ばくに着目し、高自然放射線地域の一つである中国陽江市においてラドンとトロン吸入による内部被ばく線量の評価を実施した。この成果は国際学術誌 *Radiation Protection Dosimetry* で筆頭著者として掲載済みである。即ち、本研究成果は放射線リスクコミュニケーションにおける新たな取り組みであり、今後の応用発展が期待される。

学位論文には研究課題に関する内容が十分に記述されており、審査会では研究内容の意義及び結果について十分理解している事が確認された。さらに、申請者の研究領域に関する知識と、自立して研究を遂行できる能力を備えていることも確認された。

以上の結果から、研究内容は博士論文に十分な内容を有し、申請者は博士に相応しい水準にあるものと判定した。

最終試験 平成 29 年 2 月 1 日

試験の結果は 合格 ・ 不合格 と判定する。